

Sun Storage Common Array Manager

ソフトウェアリリースノート Release 6.9.0



Part No. : E27076-01
2011 年 12 月

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

原典:	<i>Sun Storage Common Array Manager Software Release Notes, Release 6.9.0</i> Part No: E24019-01
-----	---



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート	1
ソフトウェアについて	2
ソフトウェアの入手方法	2
ソフトウェアの内容	3
上級機能 (オプション) のライセンス	4
このリリースの新機能	4
マニュアル	5
システム要件	6
サポートされるアレイ	6
サポートされる Web ブラウザ	7
ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス	7
サポートされる言語	8
パッチ	8
サポートされるオペレーティングシステム	9
ファームウェア	10
2500 アレイのアップグレード	10
VMware ESX 4.1 の 2500 アレイのサポート (ファームウェア 07.35.55.10 以降)	10
6540、6140、および FLX380 アレイのアップグレード	10
J4000 アレイ	11

Sun Blade 6000 ディスクモジュール	11
Sun Storage F5100 フラッシュアレイに関する注意	11
サポートされる拡張モジュール	11
重要な修正	15
Common Array Manager - GUI および CLI	15
マニュアルに関する修正	16
既知の問題	16
アレイに関する問題点	16
構成に関する問題点	20
マニュアルに関する問題点	24
ファームウェアアップデートに関する問題	24
インストールに関する問題点	27
Linux における問題	28
Solaris に関する問題点	30
Windows に関する問題	31
サポートへの連絡	31

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート

このドキュメントには、オラクルの Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアをダウンロードする方法と、CAM 6.9.0 製品リリースの新機能、関連マニュアル、システム要件、重要な修正、既知の問題などの情報が記載されています。

インストール、構成、およびその他の手順については、[5 ページの「マニュアル」](#)を参照してください。

このリリースノートは、次の節で構成されます。

- [2 ページの「ソフトウェアについて」](#)
- [2 ページの「ソフトウェアの入手方法」](#)
- [3 ページの「ソフトウェアの内容」](#)
- [4 ページの「上級機能 \(オプション\) のライセンス」](#)
- [4 ページの「このリリースの新機能」](#)
- [5 ページの「マニュアル」](#)
- [6 ページの「システム要件」](#)
- [10 ページの「ファームウェア」](#)
- [11 ページの「サポートされる拡張モジュール」](#)
- [15 ページの「重要な修正」](#)
- [16 ページの「既知の問題」](#)
- [31 ページの「サポートへの連絡」](#)

ソフトウェアについて

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアは、ストレージアレイを構成、管理、および監視する使いやすいインタフェースを提供します。

ソフトウェアは分散アーキテクチャーを備えており、ローカルドメインおよびリモートドメインを指定してストレージ環境を構成および管理することにより、最適な効率性と生産性を実現できます。

Sun Storage Common Array Manager には次のものが含まれています。

- ブラウザインタフェース
- ローカルコマンド行インタフェース
- リモートコマンド行インタフェース

コマンド行インタフェース (CLI) は、ブラウザインタフェースと同じ制御機能および監視機能を実行します。CLI の操作に慣れていない方にとっては、ブラウザインタフェースを使用したほうがアレイを容易に管理できます。

ソフトウェアの入手方法

1. My Oracle Support にアクセスします。
<https://support.oracle.com>
2. 「サインイン」をクリックし、アカウント情報を入力するか、新規ユーザーとして登録します。
3. ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
4. 「パッチ検索」セクションで「検索」タブをクリックし、「製品またはファミリー (拡張検索)」リンクをクリックします。
5. 「ファミリーのすべての製品を含む」を選択します。
6. 「製品」フィールドで「Sun Storage Common Array Manager (CAM)」の入力を開始し、表示されたら選択します。
7. 「リリース」フィールドで「Sun Storage Common Array Manager (CAM)」を展開し、ダウンロードするリリースおよびパッチを選択して、「クローズ」をクリックします。
8. 「検索」をクリックします。
選択したリリースで使用可能なパッチが表示されます。

- 9. 使用しているオペレーティングシステムに対応したパッチを選択します。
- 10. 「README」をクリックしてパッチの説明を参照し、インストール手順に従います。
- 11. ダウンロードするパッチが 1 つの場合は「ダウンロード」をクリックし、グループの場合は「計画に追加」をクリックします。

次の作業...

- インストール、構成などの詳細については、5 ページの「マニュアル」を参照してください。
- 最新のソフトウェアアップデートについては、8 ページの「パッチ」を参照してください。
- アレイファームウェアの詳細の入手、および Common Array Manager ソフトウェアとパッチのダウンロードの詳細については、<https://support.oracle.com/CSP/main/article?cmd=show&type=NOT&doctype=HOWTO&id=1296274.1> を参照してください。
- My Oracle Support のコミュニティで、Storage Disk 6000 および 2000 シリーズ RAID アレイについて、オラクルのエキスパートや業界の仲間とディスカッションに参加したり、ディスカッションを開始したりすることもできます。
https://communities.oracle.com/portal/server.pt/community/storage_disk_6000_and_2000_series_raid_arrays/465

ソフトウェアの内容

表 1 に、このリリースに含まれるソフトウェアのバージョン情報を示します。

表 1 Sun Storage Common Array Manager の内容

タイプ	バージョン
Sun Storage Common Array Manager	6.9.0
Oracle Java Web Console ソフトウェア	3.1
Oracle Java 2 Software Development Kit	1.6 u20
ファームウェアファイル	10 ページの「ファームウェア」を参照してください。
リモートスクリプト CLI クライアント	2.1.4

上級機能 (オプション) のライセンス

ライセンスを購入して使用できる、さまざまな上級機能があります。アレイの上級機能については、使用しているアレイの『ご使用にあたって』を参照してください。

ライセンスを注文すると、その機能をアクティブにする方法の説明とともにライセンスが送付されます。詳細は、オンラインヘルプページで次の項目を検索してください。

- ライセンス機能について
- ライセンスの追加
- ライセンスの管理

このリリースの新機能

このリリースでは、次の機能が強化されました。

- Sun Storage 2530-M2、2540-M2、6180、6580、および 6780 アレイファームウェアの更新 (07.80.51.10)
- 2500-M2 アレイのデータサービスのサポート:
 - スナップショットライセンス (アレイあたり最大 128 スナップショット、ボリュームあたり 8)
 - ボリュームコピーライセンス (アレイあたり最大 255)
 - ストレージドメインライセンス (アレイあたり最大 32)
 - パフォーマンスエンハンサー (ベースコントローラのパフォーマンスを向上)
- Sun Storage 2500-M2 ホストで次をサポート:
 - Oracle Linux 6.0、5.6、5.5
 - Oracle VM 2.2.2 (2540-M2 のみ)
 - Oracle Unbreakable Linux
 - RedHat Linux 6.0、5.6、5.5 (2530-M2 および 2540-M2)
 - SuSe Linux 11.1、10.4
 - Windows 2003 SP2 R2 clustered および non-clustered
 - Windows Server 2008 R2 SP1 clustered および non-clustered
- CAM の拡張機能:
 - Microsoft Internet Explorer 9.0 ブラウザのサポート
 - ASR の接続性の向上 (20 ページの「構成に関する問題点」を参照)
 - スナップショットのロールバックのサポート

- 拡張ドライブの予測障害解析 (PFA) レポート機能
- アレイの温度レポート機能
- CAM UI のパフォーマンスの向上
- サポートファイルバンドルの内容の拡張
- ファームウェアのリビジョンレベルが古くても、アレイの状態が機能縮退にならない

注 - Sun Storage Common Array Manager Release 6.x から 6.9.0 へのホストソフトウェアのアップグレードがサポートされています。

マニュアル

ハードウェアの情報については、そのアレイの『ご使用にあたって』および、ハードウェア設置マニュアルを参照してください。

オンラインヘルプとマニュアルページは、Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアに組み込まれています。

マニュアルは <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/disk-device-194280.html> で検索できます。

表 2 Sun Storage Common Array Manager 関連マニュアル

Sun Storage Common Array Manager 関連のマニュアル

Sun Storage Common Array Manager クイックスタートガイド

Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定マニュアル

Sun Storage Common Array Manager CLI Guide

サポートされているアレイに関するマニュアル

Sun Storage Common Array Manager Baseline Firmware Reference

Sun Storage F5100 フラッシュアレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4200 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4400 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4500 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide

Sun Blade 6000 ディスクモジュールのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage 2500-M2 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun StorageTek 2500 シリーズアレイ ご使用の手引

Sun StorageTek 2500 シリーズアレイ ご使用にあたって

Sun StorageTek 2500 Arrays Firmware Upgrade Guide

アレイのリリースノート

Sun Storage 6580 および 6780 アレイハードウェア設置マニュアル

Sun Storage 6580 および 6780 ラック型アレイ ご使用の手引き

Sun StorageTek MPIO デバイス固有モジュールインストールガイド Microsoft Windows OS プラットフォーム用

Sun StorageTek RDAC フェイルオーバードライバインストールガイド Linux OS 用

Uniform Command-Line Interface User's Guide

システム要件

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアのシステム要件を、次の節で説明しています。

- 6 ページの「サポートされるアレイ」
- 7 ページの「サポートされる Web ブラウザ」
- 8 ページの「サポートされる言語」
- 8 ページの「パッチ」
- 9 ページの「サポートされるオペレーティングシステム」

サポートされるアレイ

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアでは、次の Sun ストレージシステムがサポートされています。

- Sun Storage 6180 アレイ
- Sun Storage 6580 アレイ
- Sun Storage 6780 アレイ
- StorEdge 6130 アレイ
- StorageTek 6540 アレイ
- StorageTek 6140 アレイ

- Sun Storage 2530-M2 アレイ
- Sun Storage 2540-M2 アレイ
- StorageTek 2510 アレイ
- StorageTek 2530 アレイ
- StorageTek 2540 アレイ
- StorageTek FLX380 アレイ
- StorageTek FLX280 アレイ
- StorageTek FLX240 アレイ
- Sun Storage F5100 フラッシュアレイ
- Sun Storage J4200 アレイ
- Sun Storage J4400 アレイ
- Sun Storage J4500 アレイ
- Sun Blade 6000 ディスクモジュール
- Sun Blade 6000 Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 10GbE Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module

サポートされる Web ブラウザ

表 3 サポートされる Web ブラウザ

ブラウザ	サポートされるバージョン
Firefox	3.0 以降
Microsoft Internet Explorer	9.0, 8.0

ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス

ブラウザのパフォーマンスを改善するには、次のようにします。

- ポップアップウィンドウを有効にする。
- Sun Storage Common Array Manager ホストのプロキシを指定しない。プロキシを指定しないことで、ブラウザがハングアップ、タイムアウト、またはエラーメッセージを生成する可能性がある状況を回避します。「設定」>「詳細」>「プロキシ」(または使用しているブラウザでこれに類似するメニュー)を選択して、Sun Storage Common Array Manager の管理ホスト名を「プロキシなしのホスト」セクションに加えます。

- Firefox の最近のバージョンでは、認証ページを開く前に、セキュリティ証明書を受け入れて追加するように求められる場合があります。

サポートされる言語

ロケールはインストールの一部であるため、該当するパッチ以外にほかのソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

Solaris、Linux、および Windows では、ブラウザユーザーインターフェース (BUI) は、次の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- 日本語
- 簡体字中国語

コマンド行インタフェース (CLI) は次の言語で使用できます。

- 英語

オンラインヘルプは次の言語に対応しています。

- 英語
- 簡体字中国語
- 日本語

マニュアルページは次の言語に対応しています。

- 英語
- 日本語

パッチ

パッチのダウンロードについては、[2 ページの「ソフトウェアの入手方法」](#)を参照してください。

Solaris を使用している場合、パッチを入手するには、Solaris 10 Update 9 をインストールします。

mpt_sas ドライバには次のパッチが必要です。

- Oracle Solaris 10 10/09 とパッチ 142676-02
- Oracle Solaris 10 10/09 とパッチ 143523-02

mpt_sas ドライバには次の Solaris 10 Update も必要です。

- Oracle Solaris 10 09/10 Update 9

LSI HBA パッケージについては、<http://www.lsi.com/support/sun> を参照してください。

サポートされるオペレーティングシステム

表 4 サポートされるホストオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	OS のバージョン	注記
Solaris OS	Solaris 10 OS U10、U9	
	Solaris 11 Express 2010.11	Sun Storage F5100 アレイでのみサポート
Linux	Oracle Linux 6.0、5.7、5.6	カーネルオプションとして UEK をサポート。 Oracle Linux 6.0 ホストに CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定マニュアル』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。
	Red Hat Enterprise Linux 6.0、5.7、5.6	Red Hat Enterprise Linux 6.0 ホストに CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定マニュアル』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。
	SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1、10 SP3	
Oracle VM	Oracle VM 2.2.2	管理ホストでのみサポート
Windows	Windows Server 2008 R2 SP2	
	Windows 2003 R2 SP2	32 ビットおよび 64 ビットの両方をサポート
	Windows XP Pro SP3	管理ホストでのみサポート
	Windows 7	管理ホストでのみサポート

ファームウェア

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアとともに配布されるファームウェアは、「ファームウェアのベースラインをインストール」機能を使用してインストールできます。ただし、ファームウェアのリリースを別のメジャーリリースへと移行する際には、特別な手順が必要となる場合があります。

アップグレードを試行して失敗した場合は、<https://support.oracle.com> の My Oracle Support からお問い合わせください。

コントローラ、NVRAM、IOM、ディスクドライブ、バージョン、およびファームウェアファイルなど、ベースラインファームウェアの情報は、『Sun Storage Common Array Software Baseline Firmware Reference』を参照してください。

2500 アレイのアップグレード

25xx アレイの場合、バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。My Oracle Support で、ドキュメント『Procedure to Upgrade the Sun StorageTek 2500 Series Array Controller Firmware from 06.xx to 07.xx』(ドキュメント ID 1319254.1) を参照してください。ユーティリティをアップグレードするためのリンクと、『Sun StorageTek 2500 Array Series Firmware Upgrade Guide (820-6362)』へのリンクが含まれています。

VMware ESX 4.1 の 2500 アレイのサポート (ファームウェア 07.35.55.10 以降)

ファームウェアのバージョン 07.35.55.10 がインストールされている StorageTek 2540 アレイのデータホストプラットフォームとして、VMware ESX 4.1 がサポートされています。対応する ESXi のバージョン 4.1 も、このファームウェアバージョンでサポートされます。このサポートについては、最新の『Sun StorageTek 2500 Series Array Release Notes, Release 1.4』には記載されていません。

6540、6140、および FLX380 アレイのアップグレード

バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。My Oracle Support で、ドキュメント『Procedure to Upgrade the Sun StorageTek 6540 Array, 6140 Array or FLX380 Storage Array from Firmware 06.xx to 07.xx』(ドキュメント ID 1131593.1) を参照してください。ユーティリティをアップグレードするためのリンクと、『Sun StorageTek 6000 Series Array Firmware Upgrade Guide (820-7197)』へのリンクが含まれています。

J4000 アレイ

JBOD のインストールを Sun Storage Common Array Manager version 6.6 以降にアップグレードする前に、HBA (SG-XPICIE8SAS-E-Z) を Phase 14 ファームウェア (1.26.03 以降) にアップグレードすることがベストプラクティスです。これは、SIM ファームウェア 3A53 (J4200) または 3R53 (J4400) を使用する JBOD の検出に関する問題を回避するのに役立ちます。

Sun Blade 6000 ディスクモジュール

ファームウェアのアップグレード手順を開始する前に、マニュアル『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』を確認してください。このマニュアルには、正常なファームウェアのアップグレードに必要な情報が記載されています。

Sun Storage F5100 フラッシュアレイに関する注意

- FMod ファームウェアのアップグレード手順では、格納装置の電源を手動で再投入する必要があります。
- SAS2 HBA 接続には 5.04.05 ファームウェアが必要です。これは、工場出荷ユニットにのみインストールされています。CAM を使用して、ファームウェアを 5.3.73 から 5.04.05 にフィールドアップグレードすることはできません。

サポートされる拡張モジュール

アレイ構成に拡張モジュールを追加するには、サービスアドバイザに記載されている手順に従います。

次の表は、アレイ構成に追加できる、サポートされている拡張モジュールを示しています。

表 5 サポートされる拡張モジュール: 6000 シリーズアレイ

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる 拡張モジュール	IOM コード	
Sun Storage 6180	07.80.51.10	CSM200	98D6	注 - CAM 6.8.1 からのアップグレードで、98E4 IOM コードを使用する CSM200 トレイがある場合、これらのトレイに 98D6 IOM コードをロードするように指示されます。
Sun Storage 6580、 Sun Storage 6780	07.80.51.10	CSM200	98D6	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 iSATA	9728	
StorageTek 6540	06.60.22.10	CSM200	98D6	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 SATA	9728	
		FLA200	9330	
		FLA300	9682	
		FLC200-dSATA	9566	
		FLC200-iSATA	9728	
StorageTek 6540	07.60.56.10	CSM200	98D6	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 SATA	9728	
		FLA200	9330	
		FLA300	9682	
		FLC200-dSATA	9566	
		FLC200-iSATA	9728	

表 5 サポートされる拡張モジュール: 6000 シリーズアレイ (続き)

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる 拡張モジュール	IOM コード
StorageTek 6140	06.60.22.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek 6140	07.60.56.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorEdge 6130	06.60.22.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLC200-dSATA	9566

表 6 サポートされる拡張モジュール: 2500 シリーズアレイ

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる拡張モジュール	IOM コード
Sun Storage 2530-M2	07.80.51.10	2501-M2	0361
Sun Storage 2540-M2	07.80.51.10	2501-M2	0361
StorageTek 2510、2530、 2540	06.70.54.11	2501*	0196
	07.35.67.10	2501	0196

* 単一の 2500 シリーズコントローラトレイには、単一の 2501 拡張モジュールのみ接続できます。

表 7 サポートされる拡張モジュール: FLX240、FLX280、および FLX380 アレイ

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる拡張モジュール	IOM コード
StorageTek FLX240	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek FLX280	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek FLX380	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek FLX380	07.60.56.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728

コントローラ、NVS RAM、ディスクドライブ、バージョン、およびファームウェアファイルなど、その他のベースラインファームウェアの情報は、『Sun Storage Array Baseline Firmware Reference』を参照してください。

重要な修正

Common Array Manager - GUI および CLI

RFE 6810967 - CAM の 7 セグメント表示器のコードは、GUI および CLI の両方で確認できる必要がある

RFE 6952156 - 正常に登録しても、ASR ページに Sun オンラインアカウント名やパスワードの ***** が表示されない

バグ 7047964 - Linux 上に複数の java インスタンスがインストールされている場合、CAM の JAVA_HOME が正しく設定されない

バグ 7060784 - Linux の CAM で `uninstall -f -s` オプションを実行すると、Ops Center で共有しているディレクトリが削除される

バグ 7084599 - `sscs add -d registerarray` コマンドの出力には、F5100、FLX240、および FLX280 のアレイタイプは表示されない

CAM 6.9.0 では、アレイの健全性ステータスの算出時に、アレイの **RevisionDeltaEvent** が無視されます。したがって、ファームウェアがベースラインのものではない場合でも、注意が必要なアレイのフォルト状態を表すインジケータとして、「ストレージシステムの概要」ページで健全性ステータスを確認できるようになりました。ベースラインのものではないが健全な状態のアレイは、健全性ステータスが「OK」と表示されます。

RevisionDeltaEvent を強調表示するため、ベースラインのものではないアレイの「ファームウェアのバージョン」列に、警告アイコン (黄色い三角形) が表示されます。このアイコンはイベントに関連付けられているため、ドライブのファームウェア、NVS RAM、およびその他のアップグレード可能なコンポーネントにも表示される場合があります。

バグ 7105149 - F5100 の ASR テストでシリアル番号が見つからない

バグ 7081107 - ボリュームが含まれている仮想ディスクまたはプールを削除する前に、CLI に警告が表示される

マニュアルに関する修正

バグ 7050610 – Common Array Manager のオンラインヘルプと管理者ガイドに、6140 および 6180 アレイが最大 128 個のドライブをサポートするという間違った記述があります。正しい数は 112 です。

バグ 6796540 - 「sscs add -d registeredarray」のあとに CLI の警告メッセージが表示されます。

既知の問題

このセクションでは、既知の問題と推奨の回避策について説明します。

- [16 ページの「アレイに関する問題点」](#)
- [20 ページの「構成に関する問題点」](#)
- [24 ページの「マニュアルに関する問題点」](#)
- [24 ページの「ファームウェアアップデートに関する問題」](#)
- [27 ページの「インストールに関する問題点」](#)
- [28 ページの「Linux における問題」](#)
- [30 ページの「Solaris に関する問題点」](#)
- [31 ページの「Windows に関する問題」](#)

アレイに関する問題点

ご使用のアレイに関する既知の問題の詳細については、ハードウェアの『ご使用にあたって』を参照してください。

コントローラのスマートバッテリーの交換手順

このスマートバッテリーに関する情報は、CAM Service Advisor の「バッテリーの取り外し/交換」手順の補足です。

スマートバッテリーが取り付けられているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 「ストレージシステム」>「**アレイ名**」>「トラブルシューティング」>「FRU」の順に移動します。
2. 「FRU の概要」ページで「バッテリー」をクリックします。

3. バッテリーの「コンポーネントの概要」ページで、「一意の識別子」列のシリアル番号を確認します。
バッテリーのシリアル番号が「S」からはじまっている場合は、スマートバッテリーを表します。
4. 「名前」列で、バッテリー名をクリックします。
バッテリーの「健全性の詳細」ページに、「最後の学習サイクル」フィールドおよび「次の学習サイクル」フィールドが表示されます。バッテリーがスマートバッテリー以外の場合、これらの 2 つのフィールドは表示されません。
5. スマートバッテリーを交換するときに、Service Advisor の手順に記載されているバッテリーの有効期限のリセットを行う必要はありません。

IPv6 が有効になっていると、登録時にアレイが通信できなくなる

バグ 7096012 - アレイの登録時に、IPv6 ルータブルアドレスが正しく設定されません。CAM ホストとアレイが異なるサブネット上にある場合、ローカルリンクのデフォルト設定のアドレスを使用すると、CAM とアレイが通信できません。

回避策 - アレイに IPv4 を有効にするか、CAM ホストとアレイを同じサブネット上に構成します。

CAM で、「ストレージシステム」>「アレイ」>「物理デバイス」>「コントローラ」の順に移動します。「コントローラの概要」ページで、IPv6 セクションの下にある「ネットワーク構成の指定」をクリックします。アレイに対する IPv6 の IP アドレス、ルータブル IP アドレス、およびルーター IP アドレスを入手するには、アレイのシリアルポート経由で netCfgShow コマンドを実行します。

キャッシュブロックサイズによる古い入出力の再起動

バグ 7110592 - ファームウェア 07.80.51.10 を使用していて、キャッシュブロックサイズがアプリケーションの入出力のサイズと一致しない場合、古い入出力の再起動が発生することがあります。

回避策 - アプリケーションの入出力のサイズを、1 つのキャッシュブロックに合うようにします。キャッシュブロックサイズがアプリケーションの入出力のサイズに対して小さすぎる場合、buf_t と呼ばれる内部構造体が足りなくなります。キャッシュブロックサイズを入出力のサイズに合わせると、正しい数の buf_t を利用できるため、古い入出力が回避されます。

キャッシュブロックサイズを設定するには、選択したアレイの「管理」ページに移動します。

ファームウェアリビジョン 07.80.x.x は、次のキャッシュブロックサイズをサポートします。

- 2500-M2: 4K バイト、8K バイト、16K バイト、32K バイト
- 6x80: 4K バイト、8K バイト、16K バイト、32K バイト

6140 アレイの AIX ホストタイプ

バグ 7092652 - CAMBEX DPF フェイルオーバードライバを搭載した AIX ホストのホストタイプ設定は、『Sun StorageTek 6140 アレイご使用にあたって』に記載されているとおり、AIX ではなく AIX_FO に設定する必要があります。

バッテリーの期限切れ間近: 06.xx のライトバックキャッシュは無効化されるべきでない

バグ 6983826 - 06.xx アレイファームウェアを使用している場合、バッテリーが期限切れ間近になると、ライトバックキャッシュが間違って無効化されます。通常は、バッテリーが期限切れになるときに無効化されます。

解決方法 - アレイファームウェアを 07.xx にアップグレードします。[10 ページの「ファームウェア」](#)を参照してください。

両方の RAID コントローラが 828.5 日後に再起動する -- 2500/6000 アレイ

バグ 6872995、6949589 - 828.5 日の連続操作のあと、両方の RAID コントローラが再起動します。「vxAbsTicks」と呼ばれるファームウェアのタイマー (vxWorks) は、数字を 0x0000 0000 の形式で保持する 32 ビット (ダブルワード) の整数です。このタイマーが 0xffffffff から 0x00000000 にロールオーバーすると (約 828.5 日後)、ボリュームへのホストの入出力がある場合、関連するドライブは書き込みエラーになります。

元の解決方法 - 24 時間ごとに、ファームウェアは「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。これは、vxworks カーネルのタイミングカウンタの値を確認するタスクです。ファームウェア 03.xx - 06.60 (6000 シリーズ) を使用するコントローラおよびファームウェア 0.3xx - 6.70 (2500 シリーズ) を使用するコントローラ: カウンタの値が 825 日より大きくなると、両方のコントローラが再起動されます。

最終的な解決方法 - 24 時間ごとに、ファームウェアは「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。これは、vxworks カーネルのタイミングカウンタの値を確認するタスクです。

この修正によってコントローラの再起動が約 5 日に調整されるため、再起動の発生中に生じる影響は、ごくわずかなパフォーマンスの低下だけになります。

ファームウェア 07.15.11.12 以降 (6000 シリーズ) を使用するコントローラおよび
ファームウェア 07.35.10.10 以降 (2500 シリーズ) を使用するコントローラ: カウンタ
の値が 820 日より大きくなると、コントローラ A が再起動されます。コントロー
ラ B は、カウンタの値が 825 日より大きくなると再起動されます。

Oracle Enterprise Linux 6 のプロキシに JBOD を登録すると、 Windows および Linux で通信不能が報告される

バグ 7044185 - Windows および Solaris の管理ホストで、通信不能が報告されます。

回避策 - JBOD をローカルに登録するか、Solaris 管理ホストを使用して Oracle
Enterprise Linux 6 のプロキシを管理します。

大規模な構成で古い入出力が中止されるために再起動が発生する

バグ 6931169 - 仮想ディスクに 32 以上のボリュームが含まれている構成で、ホスト
の入出力エラーや、タイムアウト期間内に処理されなかった入出力 (たとえば、古い
入出力) を検出するコントローラからの内部コントローラの再起動が発生することが
あります。

回避策 - 仮想ディスクの再構成を行う場合は、ホストの入出力を停止するのがベスト
プラクティスです。こうすることにより、ホストの入出力エラーや、設定処理の完了
前に発生する可能性のある内部コントローラの再起動を回避できます。

ボリュームエラー - evfShowVol output: Initialization: Not Completed

バグ 6969328 - 25xx/6xxx アレイのサポートデータにバンドルされている
stateCaptureData.dmp ファイルで、「evfShowVol output: Initialization: Not
Completed」になっているボリュームが多数あります。

このバグは RAID 5 構成でパフォーマンス上の問題を引き起こします。

回避策 - <https://support.oracle.com> でサポート担当者に連絡し、このバグ番
号を伝えます。

構成に関する問題点

ASR (Auto Service Request) に CAM を登録する

CAM 6.9 に更新する前に、ASR (Auto Service Request) への CAM の登録を解除し、再登録します。CAM 6.9 は DTS トランスポートを使用します。これは、以前のバージョンの CAM で使用していた SCRK トランスポートからの変更です。

CAM で、「一般構成」>「ASR (Auto Service Request)」>「登録解除」に移動します。登録を解除したら、ASR に CAM を再登録します。ファイアウォールの構成の詳細については、CAM のオンラインヘルプにある「クライアントセキュリティ」を参照してください。

ASR を有効化するには、My Oracle Support Web サイトを使用します。

<http://support.oracle.com>

ASR の有効化の詳細については、CAM のオンラインヘルプで、「Activating ASR with My Oracle Support」のトピックを参照してください。

ASR (Auto Service Request) の補足的な注意事項: DTS リスナーの転送

ファームウェアの更新を実行するとき、または Service Advisor を使用してアレイを保守モードにするときに、次のようなメッセージが CAM のイベントログに表示されることがあります。

```
Nov 3, 2011 10:32:34 AM
com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener
transferAttemptFailed
SEVERE: Message transfer attempt failed: HTTP Error: 404 Not
found Queue not found
Nov 3, 2011 10:32:34 AM
com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener
transferAttemptFailed
SEVERE: Retrying... Time To Live in milliseconds = 960

Nov 3, 2011 10:32:34 AM
com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener
messageSendFailed
SEVERE: Failed to send message.
```

CAM の操作には影響しないため、これらのメッセージは無視してかまいません。詳細については、ナレッジ記事 1381185.1 を参照してください。

クリティカル以上のイベントに対する電子メール通知が送信されない

バグ 7104329 - 「クリティカル」および「ダウン」アラームの電子メール通知を構成しても、電子メール通知が予期したとおりに送信されません。

回避策 - アレイで発生するメジャーイベントの詳細については、「アラームの概要」ページおよび「イベントの詳細」ページを参照してください。

アクセス構成: カスケード構成の J4400 に関する問題

バグ 6924428、6925163、6925341 - 自動保存ゾーンテンプレートがインポートを行わない。カスケード構成の J4400 が間違った PHY ポートデータを返す。ゾーンなしでポートに接続されたホストが J4400 のすべてのディスクを確認できます。

回避策 - J4400 アレイのカスケードには「HostOrSimLinkIn」ポートのみを使用します。

アクセス構成: Sun Storage 6Gb SAS HBA - OS がハングアップする

バグ 6948920 - 両方の 6G バイト SAS ポートが単一のエクспанダに接続されている場合、X8 ワイドポートが生じます。単一ゾーンのドメインにデュアルポートがある場合、OS がハングアップします。この構成は無効です。

回避策 - アクセス構成のゾーン作成で、X8 ワイドポート構成を無効にします。

アクセス構成がエラー「java.util.HashMap cannot be cast to java.util.Properties」で失敗する

バグ 6928490 - このエラーは、ホストへのデュアルパス (1 つは SIM0 ドメインに接続された HBA、もう 1 つは SIM1 に接続された同じホストの HBA) を持つ、カスケード構成の J4200 および J4400 アレイの構成で確認されています。

回避策 - 操作をやり直してください。

アクセス構成: ゾーン化されていない SAS2 ワイドポート集約 FRU レポート表示 - F5100 + 6Gbps の HBA

バグ 6960746 - ゾーン機能が無効化されている単一の SAS ドメインに両方の HBA ポートを接続した構成のレポートに、次のような FRU のレポートの問題が表示される。

- Chassis.00 FRU のレポート: 接続されている 2 つのエクспанダ 1 ポート 0 のケーブルステータスフィールドのうち、1 つのフィールドがレポートに表示されない。
- Chassis.00 FRU のレポート: 2 番目に接続されているポート、エクспанダ 1 ポート 1 のケーブルステータスが機能縮退と表示される。
- アクセス構成ページにポート 0 がない。

HBA の両方のポートを、同一の F5100 エクспанダに接続すると、「ワイドポート」(8 PHY) になります。Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアでは、集約した接続を、単一の論理 SAS ポートとしてモデル化します。「アクセス構成の概要」ページには、英数字でソートして順位の高い接続ポートの情報が表示されるだけです。たとえば、ポート 0 とポート 2 が同じエクспанダに接続されている場合、ポート 2 のみ表示されます。

この問題は、ポートオプションのコネクタリストに単一のエントリが表示される CLI でも発生します。

ワイドポートのアドレス指定は、ほかの形式も有効です。ポートの SAS アドレスを使用できます。この場合、2 つの HBA コネクタの 8 つの PHY すべてに対して単一のアドレスが提供されます。

アレイのロックキーは、構成ファイルをインポートする前に設定されている必要があります。

インポートする構成ファイルにセキュリティ保護されたボリュームが含まれている場合、インポートする前に、アレイのロックキーを設定する必要があります。セキュリティ保護されたボリュームが検出されたが、アレイロックキーが設定されていない場合、インポートの検証手順は失敗します。インポートジョブは開始されず、ターゲットアレイ上の設定は変更されません。

**J4200 に挿入されたディスクドライブに対して
ComponentInsertEvent が生成されない**

バグ 6953638 – J4200 にディスクドライブを挿入しても ComponentInsertEvent が生成されず、イベントログにも記録されません。ValueChangeEvents (たとえば、スロット x のディスクに対し、「Status」に加えて、「削除済み」から「正常」に変更) のみが生成されます。

「現在のジョブ」ページを表示するのに 5 分以上かかる

バグ 6871197 - 1023 個のボリュームコピーを持つ Sun Storage 6180 アレイでは、「現在のジョブ」ページの表示に 5 分以上を要します。

回避策 - 「現在のジョブ」 ページを再度クリックすると、ページがより迅速に表示されます。

エクспанダファームウェア 5.3.73 では SAS ゾーングループが維持されない

Sun Storage F5100 フラッシュアレイのエクспанダファームウェア 5.3.73 は、イニシエータの SAS アドレスが変更になった場合、SAS ゾーングループを維持しません。イニシエータの SAS アドレス変更は、ホストが再起動されたこと、または新しいイニシエータが以前にゾーン分けされていた F5100 のポートに差し込まれたことが原因で発生する可能性があります。SAS アドレスを変更すると、Sun Storage Common Array Manager はイニシエータとデバイスが関連付けられていると報告します。しかし実際には、F5100 のエクспанダは、ホストとゾーン分けされたデバイスを分離しています。これにより、ホストは、ゾーン分けされたデバイスにアクセスできなくなります。

回避策 - 新しいイニシエータのアドレスを既存のデバイスと再ゾーン化し、新しいホストのイニシエータをターゲットデバイスに関連付けます。この問題は F5100 のエクспанダファームウェア 5.4.4 で修正されます。

1 次ボリュームが失敗した場合に、複製のステータスの表示が正しく表示されない

バグ 6561709 - 複製セット (6xxx アレイ) の 1 次ボリュームが失敗すると、管理ソフトウェアが誤ってボリュームが複製中であると表示する場合があります。

サービスアドバイザ: デュアルパス構成の不良 SIM の交換

カスケード構成の JBOD を持つゾーン内のホストへのデュアルパスがあり、不良 SIM を交換する必要がある場合、新しい SIM に SAS ケーブルを差し込むと問題が発生することがあります。これは、新しい SIM がゾーン化されておらず、古いゾーンが復元されるまで、すべてのホストがすべてのディスクを参照するためです。

回避策 - 不良 SIM を交換する前に、デュアルパス構成の場合でも、すべての入出力を停止します。新しい SIM を挿入するときに、入出力の停止が必要なファームウェアをアップグレードする必要があります。不良 SIM を交換する前にこの手順を行うと、以降の入出力を試みる前に新しい SIM を再ゾーン化できます。

単一ページのウィンドウからボリュームが削除されない

バグ 6807053 - 単一ページ内でデータを表示するオプションで「ボリュームの概要」ページからボリュームを削除することができません。複数のボリュームを削除したあと、「ボリュームの概要」ページに以前と同じボリューム数が表示されます。

回避策 - ページ分けされた表示を使用してボリュームを削除します。

2 次アレイ上のパートナー複製セットの削除に失敗する

バグ 7057616 - CLI または GUI を使用して複製セットを削除するときに、複製の一部になっているコントローラに停止しているポートがあると、2 次アレイ上のパートナー複製セットが削除されません。

回避策 - 2 次アレイに移動して、パートナー複製セットをアレイから削除します。

マニュアルに関する問題点

2500 シリーズの『ご使用にあたって』：単一構成と二重構成

『Sun StorageTek 2500 Series Array Release Notes, Release 1.4』で、1 ページと 21 ページの StorageTek 2501 拡張モジュールの単一構成と二重構成に関する情報に矛盾があります。正しくは、単一の 2500 シリーズコントローラトレイには、単一の 2501 拡張モジュールのみ接続できます。

ファームウェアアップデートに関する問題

ファームウェアに関する重要な問題の修正については、[15 ページの「重要な修正」](#)を参照してください。

J4200/J4400 アレイのファームウェアのアップグレードが失敗し、「FWR_UPGRADE_FAILURE,6」というエラーが表示される

バグ 6871188、6919285、6925388 - x6250 ブレードに接続されている J4200/J4400 のファームウェアのアップグレードが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

ファームウェアアップグレードのエラー。続けて表示されるエラーメッセージおよびアレイのアラームページをチェックして、アレイに問題がないか確認してください。
flash firmware image failed FWR_UPGRADE_FAILURE,6

JBOD 上のファームウェアが 3R21 のままで、すべてのディスクが同じファームウェアレベルのままです。

回避策 – これと同じ現象が SUSE Linux ホストで見られることがあります。J4400 SIM のアップグレードが、場合によって SIM ファームウェアの不一致により、リターンコード 6 で失敗します。これには次の 2 つの回避策が考えられます。

- ファームウェアの不一致以外でアップグレードに失敗した場合、次を行います。
アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのアップグレードウィザード (GUI) に戻ります。

- ファームウェアの不一致によってアップグレードに失敗した場合、次を行います。

アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、次の CLI コマンドのいずれかを使用してファームウェアアップグレードに戻ります。

```
sscs modify -a <array-name> -f -t sim -o -w firmware
```

または

```
csmservice -i -a <array-name> -f -t sim -o -w
```

J4400 SATA ドライブでファームウェアのアップグレードが失敗する

バグ 6939824 - J4400 のアップグレード時に SATA ディスクのファームウェアアップグレードに失敗します。

回避策 – アップグレード前に、関係するディスクを別のスロットに移動すると、それらは機能低下状態ではなくなります。

エクспанダとディスクを一緒にアップグレードすると、ファームウェアアップグレードに失敗する

バグ 6916355 - エクспанダとディスクファームウェアを同時にアップグレードしようとするエラーが発生します。

回避策 – アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのインストールウィザードを再実行します。そのあとで、ディスクドライブのファームウェアのアップグレードを再開します。

エージェントを実行するまで GUI にはファームウェアのアップグレードが認識されない

バグ 6873568 - ファームウェアをアップグレードしたあと、CAM の GUI が正しいバージョンに更新されません。

回避策 - エージェントが実行されるまで 5 分ほど待機するか、エージェントを手動で実行します。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードエラー: No such expander - 50800200006deabf SIGSEGV in Linux libSTORARC.so

バグ 6952753 - Sun Blade 6000 のファームウェアのアップグレード中に、次のエラーが報告されます。

```
No such expander - 50800200006deabf SIGSEGV in Linux  
libSTORARC.so
```

回避策 - Adaptec 以外の HBA を使用します (SAS コントローラを使用したブレード混在環境)。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードが、エクспанダのレベル低下により失敗する

バグ 6948014 - 関連付けられている NEM が最新のリビジョンレベルでない場合、Sun Blade 6000 のファームウェアのアップグレードに失敗します。

回避策 - NEM (Network Expansion Module) および Sun Blade 6000 ディスクモジュールにアップグレードのフラグが付いた場合、NEM から先にアップグレードを実行します。その次に Sun Blade 6000 ディスクモジュールストレージのアップグレード処理を行います。詳細については、『SAS Compatibility Firmware Guide』を参照してください。

Sun Blade 6250 および 6270 - ネットワーク拡張モジュールのアップグレードが失敗する

バグ 6965677 - CAM で、NEM エクспанダのアップグレードが正常に完了したことがレポートされましたが、更新されたファームウェアが GUI に反映されていません。

回避策 - アップグレードを再試行するか (数回行う必要がある)、Adaptec 以外の HBA を使用してください。

インストールに関する問題点

SUSE 10.3 32 ホスト (32 ビットおよび 64 ビット) でインストールに失敗する

バグ 7112028 - 次のメッセージが表示され、CAM のインストールに失敗します。

```
The package jdk- did not install successfully.
```

回避策 - `uninstall -f` を実行してから、CAM ソフトウェアを再インストールします。jdk はアンインストール時に削除されるため、手動で削除する必要はありません。

Oracle Java Web Console サービスの失敗 - InstallShield で間違ったスイッチが表示される

バグ 6792599、6753860 - InstallShield で、エラーメッセージに間違ったスイッチが示されます (正しいスイッチは `-c`)。

- GUI ベースのインストールの失敗で無効なスイッチオプションが示されます。
- Oracle Java Web Console サービスのデフォルトの 40 ビット SSL キーが、FIPS/Fed autids に失敗します。
- テキストベースのインストールで Sun Storage Common Array Manager のインストールを試みる場合、正しいスイッチを追加しないと、インストーラをグラフィックモードで実行できません。

回避策 - 次のように指定してインストーラを実行します。

```
-c flag
```

```
root@sx-dimen-a04# ./RunMe.bin -c
```

注 - JVM のデフォルトの暗号化の変更または Tomcat 構成ファイルの変更については、サポート (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

Linux における問題

注 - Oracle Enterprise Linux 6.0 または Red Hat Enterprise Linux 6.0 に CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定マニュアル』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。

SUSE11.1 の innserv jexec init.d スクリプトで「Require-Stop」が動作しない

バグ 7013981 - /etc/init.d jexec スクリプト内に「Require-Stop」用の依存起動シーケンス LSB コメントがありません。現在、管理者が RPMS、HBA 管理アプリケーション、フェイルオーバー RDAC パッケージなど、関連のないその他の製品をインストールすると、常に警告が生成されます。

回避策 - /etc/init.d/jexec に次の行を追加します。

```
# Required-Stop: $local_fs
```

SUSE11 の CAM に無効なパスワードでログインする

バグ 6911829 - SUSE11 で CAM にログインするときに無効なパスワードを入力すると、有効なパスワードを入力してもログインプロセスが機能しません。

回避策 - ブラウザを一度閉じてから再度開き、正しいパスワードを使用して CAM にログインします。

SATA ドライブの追加や削除にはホストの起動が必要

バグ 6835314 - RedHat 5.2 と SUSE 10 の両方で Linux kernel:mptbase(Abort) が発生します。

SATA ドライブを Linux ホストに追加したり Linux ホストから削除したりすると、次のメッセージが表示されます。

```
kernel: mptsas: ioc2: removing sata device: fw_channel 0, fw_id 4, phy 4, sas_addr 0x500163600010a390
```

```
kernel: mptbase: ioc1: LogInfo(0x31120101): Originator={PL}, Code={Abort}, SubCode(0x0101)
```

次のメッセージが表示されることもあります。

```
multipathd: sdd: checker msg is "tur checker reports path is down"
```


通常、(kernel: mptsas) メッセージはゾーン化動作で表示されますが、(kernel:mptbase) メッセージも表示される場合は、再起動しないとホストでドライブを適切に認識できません。

回避策 - ホストを再起動します。

Sun Storage J4000 および F5100 フラッシュアレイ - Linux のホットプラグに関する問題点

J4x00/F5100 のホットプラグについては、2つのカテゴリの問題点が確認されています。1つはLinuxホストの再起動が必要になるもの、もう1つはホットプラグがサポートされないものです。これらは、次に示すように、2つのサブセクションに分類されます。

1. ケーブルの再構成やファームウェアのアップグレードなどを行なったあとでアレイまたはそのコンポーネントが認識されない場合は、Linuxホストを再起動する必要があります。
 - StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない
 - Sun StorageTek SAS RAID HBA とレポートが整合しておらず、FRU ディスク情報がない。これは、SAS バスの再走査時に予期される J4x00 の登録時の動作です。
 - Sun Blade 6000 ディスクモジュールでファームウェアのアップグレードが失敗する。
 - J4x00 - B0/B1 側に関連する、登録時およびアップグレード時の名前の問題。
 - J4x00 - Linux での J4x00 の登録 - `sg_map -i` コマンドでエラーが発生すると、コマンドが失敗し、ホストが再起動して `sg_map` がクリアされます。
 - アクセス構成の変更、ケーブルの再構成、ファームウェアのアップグレード、または新しいストレージの追加によってターゲット (ディスクなど) が新しく追加または削除されると、Linux カーネルの既知の問題によって、ホストがハングアップしたり、パニックが発生したりすることがあります。

バグ 6731595 - J4200/J4400: Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SUSE 9 SP 4: マルチパス (デバイスマッパー): 代替 SIM で障害が発生すると、ホストがハングアップします。

バグ 6732411 - J4200/J4400: Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SLES9SP4: マルチパス: Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアの SIM ファームウェアをアップグレードしたあと、JBOD への通信が切断されます。

バグ 6777089 - MPT 3.16.00.00 pandora hba SAS ケーブルの挿入、エクスパンダのリセットまたは電源切断および再投入を行うと、リセットするまで x86 ホストがハングアップします。

バグ 6817878 - OS で、プロキシサーバーまでフィルタするゾーンを正しく認識できません。これはLinuxホストに固有の問題です。

バグ 6830042 - JBOD エクспанダファームウェアのアップグレードにより、エクспанダのリセットで Linux OS がハングアップすることがあります。

バグ 6833156 - 1.26.03.00: JBOD で電源の再投入を 2 度行なったあとで、Linux の不明なターゲット `fdisk -l` および `sg_map -i` がハングアップします。

2. Sun StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない。一般的な回避策は、ケーブルの構成変更などを行なったら、その都度アレイを再起動することです。

バグ 6723686 - J4x00 の不良ディスクドライブ (Sun StorageTek SAS RAID HBA) が報告されません。

バグ 6732704 - J4x00 の Windows エージェント (Sun StorageTek SAS RAID HBA) によって 0.0M バイトが報告されます。ドライブの FRU に一意の識別子がありません。

Solaris に関する問題点

システム起動時にエラー「no execute access to opt/SMgr/agent/notifysmagent.sh」が発生する

バグ 6934913 - このエラーは、`/opt(SMagent インストールディレクトリ)` がルートパーティション以外のディスクパーティション上に作られた場合に発生します。

回避策 - その結果、イベント通知はなくなりますが、再走査中に SMagent によってディスクデバイス (UTM ボリューム) が検出されるため、悪影響はありません。`notifysmagent.sh` スクリプトは SMagent 起動スクリプトと同じディレクトリにあるため、`syseventd` でも使用できます。

UTM LUN が「Solaris Traffic Manager」で制御される (6000/2500 アレイ)

S10U3 以降にアップグレードしたあとに、帯域内管理 UTM LUN が Solaris Traffic Manager (MPxIO) で制御されます。多くの場合、この結果として帯域内管理に失敗することはありませんが、UTM LUN が MPxIO で制御されないようにすることが最良の方法です。

回避策 - `format inquire` コマンドを使用して 8 文字のベンダー ID (VID) と製品 ID を取得します。次の手順に従います。

1. `/kernel/drv/scsi_vhci.conf` ファイルを編集します。

次の行のようにします。

```
device-type-scsi-options-list = "SUN Universal Xport", "disable-option"; disable-option = 0x7000000
```

2. stmsboot -u コマンドを実行します。

表示される要求に対して次のように応答します。

```
WARNING: This operation will require a reboot.
```

```
Do you want to continue?[y/n] (default: y) y
```

変更はシステムを再起動すると有効になります。

```
Reboot the system now? [y/n] (default: y) y
```

Windows に関する問題

Windows 2008 R2 SP1 サーバーを使用するとサポートデータが保存されない

バグ 7076972 - Windows 2008 R2 SP1 サーバーを使用すると、アプリケーションのサポートデータのファイルを保存できません。アレイのサポートデータを **Common Array Manager** に収集および保存するには、「アレイ」>「一般構成」>「サポートデータ」を選択します。

回避策 - Windows 2008 サーバーで、「暗号化されたページをディスクに保存しない」を無効にします。「ツール」>「インターネット オプション」>「詳細設定」>「セキュリティ」に移動し、「暗号化されたページをディスクに保存しない」の選択を解除します。

サポートへの連絡

<https://support.oracle.com> でサポート担当者にお問い合わせください。

